

令和5年度 第2回区自治協議会会長会議

日 時	令和6年1月23日（火）午後3時30分 ～ 午後4時45分	
会 場	新潟市役所本館 6階 講堂1	
出席者	会長	前田 義憲 北区会長、 佐藤 雅之 中央区会長、 中島 純 秋葉区会長、 大谷 一男 西区会長、 佐藤 清 東区会長、 中野 高子 江南区会長、 高橋 直廣 南区会長、 吉田 金豊 西蒲区会長
	事務局等	市民生活部長ほか
傍聴者	0名	
主な議題	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 令和6年度全体委員研修会について</p> <p>【開催案について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度全体研修会の開催案について、事務局から説明がありました。 ・開催時期は、5月7日（火）～5月17日（金）の期間で平日の午後を想定し、調整を行うとしました。 ・研修内容の方向性については、「事例発表・分科会・全体共有」の3部構成で実施することとしました。 ・事例発表については、各区の取組事例の共有を目的に、全員が一堂に集合した形式で行うこととしました。 ・分科会については、各区の取組や課題を交えながら、各テーマに分かれて、意見交換を行うこととしました。 ・分科会は全部で10分科会を設置、1分科会15名程度で1テーブルの形式で行い、進行役等の役割分担は分科会ごとに決める想定で検討を進めることとしました。 ・全体共有については、全員が一堂に集合した形式で、分科会で得た気づきや拳がった意見の共有を目的に行うこととしました。 <p>【開催案における検討事項について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催案における検討事項に対する事務局からの提案を踏まえ、具体的な実施方法について意見交換が行われました。 ・検討事項①「分科会のテーマ設定」については、案2「アンケートの上位7テーマに固定する」が採択されましたが、令和6年能登半島地震を受けて、防災を軸としたテーマに見直すこととしました。 ※アンケートとは、令和5年度の全体委員研修会後に実施したもの ・検討事項②「発表事例の選定」については、案2「分科会テーマに 	

じた事例」が採択されましたが、テーマを防災に固定するため、各区・各地域で行われてきた防災に関する取組事例を選定することとしました。

- ・検討事項③「事例発表で発表する区」については、防災に関する取組の実績がある区から発表をお願いすることとし、案2「代表区（4～5区）による発表」が採択されました。
- ・検討事項④「全体共有の発表」については、発表時間をしっかり確保できるよう、案2「代表（3～4分科会）に限定」が採択されました。
- ・開催案における具体的な実施方法については、4つの検討事項に対するご意見を参考に、事務局で検討を進めることとしました。

◆主な意見

- ・分科会の時間配分は60分では足りないと感じる。全体で時間調整を図り、約80分に増やして実施するのが望ましいのではないか。
- ・今年は新潟地震から60年、中越地震から20年、能登半島地震の被害を踏まえ、防災をテーマに分科会や事例発表を考えるのはどうか。
- ・研修テーマを防災に絞って、各区・各地域がどのような取組をしてきたのか、どこが足りない部分なのかを、分科会で互いに学び合うべき。
- ・分科会の意見交換は、開催案のとおり、1つの結論をまとめるものではなく、より多くの意見を共有する形式で実施すべき。
- ・分科会については、防災を軸に「避難所運営」や「防災訓練」など具体的なテーマに細分化して設定した方が、議論しやすいと考える。
- ・防災は、自治協議会全体というよりも、自治会・町内会や中学校区といった単位で動くケースが多いため、テーマを細分化した際に発表できる委員が少なく、市役所任せにならないか少し不安ではある。
- ・ただし、まちづくりや高齢者支援など、それぞれのテーマに防災という分野は関係していると思う。テーマの中の防災というイメージで意見交換をするのであれば問題はない。
- ・テーマを防災に固定する場合、防災の取組事例がない区も想定されるため、各区1事例発表の形式は難しいのではないか。
- ・防災に関する取組の実績や経験のある区に限定して、発表をお願いするのはどうか。
- ・全体共有については、全分科会が発表する場合、1分科会3分程度の短時間になってしまうため、代表に限定した方が十分な共有ができ、意義があるのではないか。

(2) その他

【各区自治協議会の課題や取組に関する情報共有】

- 今年度の自治協提案事業や活動のなかで感じている課題について、各会長から報告がありました。

◆各会長からの報告内容

(西区)

- 自治協提案事業の1つとして、11月に区民を対象とした防災講演会を開催し、防災システム研究所の山村武彦所長より、防災への備えに対する心構えと地域共助の大切さについて、講演していただいた。
- 区役所企画事業として、本格的な避難所運営の想定訓練を1泊2日で行った。
- 12月には、自治協委員を対象に、豪雨災害に備えるためのタイムライン作成をワークショップ形式で行った。

(北区)

- 地域づくり部会では、福島潟に周辺の山間地から流れ込む水をどのように制御するかなど、北区の洪水対策について学ぶ機会があった。
- 他の部会についても、研修の開催や来年度の提案事業に向けた活発な議論をしている状況である。

(東区)

- 昨年8月、北区と東区で合同研修会を開催し、委員間の交流を深めるとともに、お互いの自治協の活動状況を学ぶ新たな取組を実施した。
- これまで自治協で取り組んだ事業を、具体的に実践していく地域の方々が増えており、キッチンカーの誘致や自治会の運営事例集など一定の成果があったものと捉えている。
- 東区では、避難所運営における実践的な講習会をしており、その積み重ねが成果として、元日の避難所開設時に活かされた実感している。

(中央区)

- 給食の無償化や部活動の地域移行など難しい問題となると、自治協で討議できない点について、物足りなさを感じている。
- 自治協は、地域の代表が集まる組織であるため、もう一步踏み込んだ内容で討議ができるようにするべきと考える。

(江南区)

- 今回の地震では、曾野木地区の液状化被害が大きかった。
- 校区によって被害状況が異なり、避難所の運営方法も様々であると改めて実感した。
- 若手委員が増えてきている。来年度は新しい企画に向けて楽しみな年になりそう。

(西蒲区)

- 1月の自治協では、西蒲区の災害状況や各地域コミュニティ協議会での対応について意見交換を行う。
- 今年度事業としては、2月に防災啓発事業として、防災講演会と防災演劇を予定している。また、信友直子さんの映画上映会と講演会も予定している。

- 地域活動のボランティアを募集し、担い手不足で困っている地域団体とつなぎ、相互交流を図る仕組み「にしかん応援隊」を、今年度より試験的に始めた。令和6年度より本格的に実施をする予定である。
- 令和6年度には、新たな試みとして3部会合同事業を企画している。

(南区)

- 南区では、研修内容を見直し、SDGsの地方創生研修を実施した。
- 部会ではテーマに沿って、南区のまちづくりに対する幸福度の要因についてフリートークで意見交換を行った。
- 今年度は第3部会の事業「味わい市場」に第1部会が防災ブースを出展するなど、2部会合同で事業を実施した。

(秋葉区)

- 今年度、区内11の地域コミュニティ協議会ごとに、5年後、10年後の行動計画（未来ビジョン）を策定した。
- 持続可能な地域社会に向けて、地域コミュニティ協議会だけでなく、学生やPTAをはじめとした様々な人が集まり、ワークショップを3回開催し、約1000人の参加があった。
- 令和6年度は、策定した未来ビジョンの実現に向けて、実行委員会を立ち上げるなど取組を進めていきたい。

【事務局からの情報共有】

- 令和5年度の各区自治協提案事業の事業評価、3月に開催を予定している各区自治協議会と市長との懇談会について、事務局から情報共有がありました。
- 次回の区自治協議会会長会議の開催時期について、事務局から情報共有がありました。

3 閉会